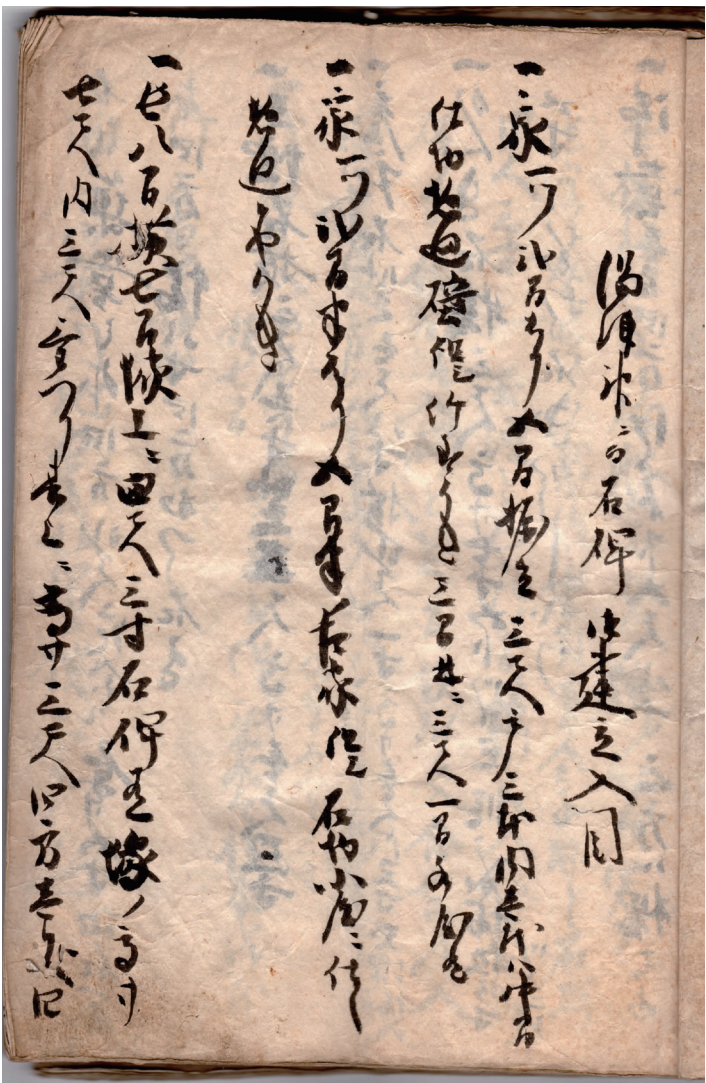


湯津神にて石碑(を納めるお堂)を建てた明細記録

- 一家一つ 幅一間 長さ五間 掘立 二尺 戸二本 そのうち一本は中間仕切 全周を壁にする 竹の垣根を二間 ならびに二尺一間の水屋。
- 一家一つ 幅二間半 長さ五間半の古い家 石を加工する小屋に使う 全周に力ヤの垣根。
- 一 長八間、横七間(13×14メートル)の塚の上に四尺三寸(130センチ)の石碑がある。塚の高さは七尺(2.1メートル)で、そのうち三尺三寸(1メートル)を低くした上に、高さ三尺で四方に一丈(3メートル)の四つの



石を切つて、お堂を築き、外周の四方向に二尺(60センチ)ずつ余裕を持たせた。厚さ五寸(15センチ)の切石を一面に敷いて、幅八寸(24センチ)のかつら石をめぐらせた。

- 一 玉壇(国造碑を載せる下の段)の石は横三尺三寸(99センチ)、縦三尺(90センチ)、高さ二尺二寸(36センチ)。
- 一 台座(国造碑を載せる上の段)の石は縦二尺八寸(54センチ)、横二尺二寸(63センチ)、高さ二尺(30センチ)、下段の石を三寸(9センチ)掘って入れた。
- 一 かんき石(階段の石)は横三尺(90センチ)、高さ七寸五分(23センチ)を二段重ねて幅板九寸(27センチ)ずつ三段にした。かつら石に載せる帽子の石ふたつはそれぞれ五寸(15センチ)。

